令和５年度　学校評価（アンケート）結果

１　実施方法

○対象は児童生徒及び保護者、教職員に評価１～４の４段階評価でアンケートを実施

○実施期間は令和５年１１月２８日（火）から１２月８日（金）（高等部生徒は１２月１５日（金）まで）

２　回収率と評価

（１）保 護 者（回収率　６７％　４５/６７）
（２）教 職 員（回収率　９０％　３７/４１）
（３）小・児童（回収率　６６％　　４/　６）
（４）中・生徒（回収率　７６％　１３/１７）
（５）高・生徒（回収率　７０％　３１/４４）

※児童生徒アンケート結果については、各部において分析と意見の集約を行い、指導の参考資料とする。

３　アンケート結果と分析

○保護者

・全評価平均は 3.3
・「昨年差」が±0.5 以上の項目はなし。「15　子供は、楽しく学校に通っている。」で 0.3↓。↑はなし。
・今年度の「評価」が 3 以下（低い）の項目は、「8　（家庭学習の習慣）」
・今年度の「評価」が 3.5 以上（高い）の項目は、「16　（校内美化、安心・安全）」「18　（学校からの発信）」
・一番低い評価「できていない」が複数あった項目は、「8　（家庭学習の習慣）」「15　子供は、楽しく学校に通っている。」

○職員

・全評価平均は 3.3（＋0.1）
・「昨年差」が±0.5 以上の項目はなし。
・今年度の「評価」が 3 以下（低い）の項目は、「4　（目指す児童生徒像のキャリアプランニング教育）」
・今年度の「評価」が 3.5 以上（高い）の項目は、「10　（いじめ）」「11　（アレルギー、食事指導）」「16　（校内美化、安心・安全）」
・一番低い評価「できていない」が複数あった項目はなし。

○分析

＜保護者＞

・家庭学習に関する項目が低く、意見にも、テスト前の教科書の持ち帰り、プリントがどのぐらいできているかみたい、進学について情報が欲しい、などがあり、学習に関心のある保護者への対応、家庭学習の定着について検討が必要と言える。・・・①
・「15　子供は、楽しく学校に通っている。」が昨年度よりダウン、「できていない」と感じている保護者が複数いるのは、残念。登校ができていない、欠席が目立つ児童生徒が多いことも理由であると考えられる。・・・②
・「16　（校内美化、安心・安全）」の評価が高いことに関しては、毎日の校内清掃で校内の清潔が保たれ、定期的な危険物、危険個所の整備の実施によると考えられる。・・・③
・「18　（学校からの発信」」の評価が高いことに関しては、ホームページの定期的な配信、写真の持ち帰りの実施などがあり、学校生活の様子が各家庭に伝わっていると考えられる。・・・④

・「10　（いじめ、人権）」に関して、保護者、職員ともに評価は高く、アンケート実施等、効果的な取組が行われている結果と言えるが、「人だけでなく、命あるものへの思いやりを感じていけるような取組みをしてほしいと思います。」という意見あり、今後のいじめ、人権教育の参考となるか。・・・⑤

＜職員＞
・「4　（目指す児童生徒像のキャリアプランニング教育）」の評価が低いのは、「学校に登校することが精一杯な生徒、学校とつながることが難しい生徒など社会とつながるまでいけない生徒（職員の意見抜粋）」が多く、職員が指導に難しさを感じていると考えられる。・・・⑥
・「16　（校内美化、安心・安全）」については、保護者同様、高い評価となった。
・ほとんどの項目の評価は 3 以上であり、3.5 以上も 3 項目ある。職員の自己評価は高いと言える。

4　今後に向けての改善策（①②⑤⑥について、各部、各分掌部からの改善策）
①について
○「まなびポケット」の活用の仕方を、もっと保護者にわかりやすく説明する機会を設けてはどうか。（小中）
○個別の教育審計画の話の際に、「本人の願い」の中で進学の話をしてはどうか。「家庭における支援」の中で、家庭学習についての目標を実態に合わせて設定してはどうか。（小中）
○高等部や教務部の２学期反省に挙げたように、テスト前の学習や空き時間に学習する生徒がいること、タブレットの持ち帰りにより家庭での学習に取り組めている生徒がいることを保護者へ伝えていくことが必要である。（各教科で課題が出ていないわけではない）（高）
○タブレットで学習できる「まなびポケット」の啓発が十分できなかった。３学期は各学級や情報の授業で活用方法を確認し、各教科や家庭学習で使用できるようにする。（高）
○宿題をなぜさせたいのかを知るために進路面談等の際に、保護者が家庭学習についてどのように考えられているか確認をしてはどうだろうか。取り組ませたい家庭には取り組ませ、登校が精一杯の家庭には特に取り組ませる必要はないと考える。（高）
○宿題の丸付けなど宿題について保護者にも関わってもらうことで子どもの取組を知ってもらえるかもしれない。（小学校みたいなので高等部に適するかは疑問である）（高）
○進学の情報が少ないとの意見が挙がっているが、本校は進学が中心ではないことは学校説明会、教育相談でも話をしている。また模試の実施などを通して、進学に必要な学力、そのための学習（自分で学習を積み重ねる力）の必要性を伝えていく必要がある。（高）

②について
○小学部は、各クラスの人数が少ないため、子ども同士で関わることのできる時間がもう少しもてるよう工夫してはどうか。何かみんなで楽しめる活動や合同の授業があったら良いのではないか。来年度から学期ごとに発表会を行う予定である。（小）
○学校は下記のことを考慮しながら指導を行っていることを保護者へ伝え、理解と協力を得ることで子どもの心身の負担を軽減できるのではないか。
・それぞれの子どもの障害特性、発達段階などを考慮しながら指導していること
・「○○しなければならない」の考え方ではなく、子どもの状態に合わせた関わり方をしていること
・進路と結び付けながら、卒業後の生活につながるように指導していること（高）
○教科指導において、研修を重ねたり、新しい情報を取り入れたりしながら分かる授業が今以上にできるように工夫していく。教科部会などで授業を見あうなど、チームで授業づくりに取り組むことを進めていき、分かる授業を実施できるようにしていく。（高）

○生徒にアンケートを実施して、「子どもが思う楽しい学校」について確認し、できることを探る。（高）
○休み時間、昼休みの過ごし方について、楽しい経験をしたことが少ない生徒も多いので、教師が一緒に工夫しながら過ごしていく。昼休みの時間を確保できる工夫もできればなおよい。（高）

⑤について
○学校で生き物を飼うのは難しいが、中には教室で身近な生き物を育てたり、理科等の学習で飼育したり、先生方が家で育てている生き物を見せたりすることもある。クラスだけでなく、他の児童生徒にも知らせるなどして、触れ合う機会を増やすことはできるかもしれない。（小中）

⑥について
○その学年や学部のめざすキャリアプランニング教育にこだわらず、児童生徒に合わせたキャリア教育でよいことに、教員の考えをシフトしていけたらよいのでは。（小中）
○担当医やＳＣ、ＳＳＷ、市役所の関係機関など外部の協力を得ながら生活や将来に見通しをもたせていく必要がある。（高）
○登校に難しさを感じる生徒の問題は学校だけではなく、家庭での関係など複雑に絡み合っているため対処するのが難しいし限界がある。ＳＣ、ＳＳＷなど外部専門家を活用をしながら、もっと広い視野からのサポートや不登校の生徒に対する理解を定期的に研修していくしかないのではないか。（自立）
○安定した登校が難しい生徒については、まずは自己理解、自己管理能力を育てる指導をしていくしかない。

5　今後の予定
・全部、分掌部において、「４　今後に向けての改善策」①②⑤⑥を含め、今回のアンケートから取り組めそうな改善策を見付け（良い結果をさらに深める、課題を改善する、どちらでもよい）、次年度の各部、各分掌部の具体的な努力目標として取り組んでいく。
○年間計画
・評議員による学校関係者評価の実施（自己評価結果について報告）
・学校評価を受けて結果と改善策についての共有（職員会議）
・評価結果報告（県教委、保護者、外部）
・次年度育友会総会での説明